

「三価クロメート」「クロムフリー」 環境に配慮した先進技術

納期
相談
コスト
相談
メイド
イン
ジャパン
産
地
対
応



増設したメッキライン装置

業務内容

品質追求と環境配慮を
両立したメッキ技術

自動車や弱電、建築業界を始めとする幅広い分野で欠かすことのできないボルト・ナット・ネジ等の部品に対し、電気亜鉛メッキ処理や加工を行っている平和化研。

欧州を始め世界中で環境への配慮が高まる中、同社では自動車及び電子機器部品でニーズの高い三価クロメート処理を中心に、建築関連業界等で主流の六価クロメート処理、メッキの防錆力と重防食複合皮膜とを融合した処理を手掛ける他、今後の需要喚起が予想されるクロムフリーの高耐食表面処理「プロイズ」にも注力している。

強み

ニーズを読んだ設備投資で
幅広く対応

同社ではいち早くISO9001・ISO14001の両認証を取得した他、欧州ELV指令・WEEE指令・RoHS指令を完全にクリアした三価クロメート処理も手掛けている。このように業界や製品によって求められる「価値」が異なる中、必要に応じた設備投資を的確なタイミングで行い、間口を広めてきたのが同社の強みの一つとなっている。

例えば、メッキ処理後にベーキング炉へ自動的に投入・処理を行うインライン連続ベーキング炉を完備。自動車業界対応の処理を行うと同時に、充実の検査機器を使用することで最高品質の製品を提供している。さらに、今後の需要拡大に備えて新たなラインも導入し、潜在的なニーズを見越した設備

投資を積極的に進めている。同社の工場はいずれも24時間体制で、柔軟な納期対応ができる点も強みだ。

環境整備

2つの生産拠点で役割分担
生産能力も拡大

三価クロメート処理と六価クロメート処理、どちらの処理も行っている同社においては、その強みが同時に「薬剤の混入」という懸念材料にもなる。

そこで同社は六価クロメート処理を本社工場で行い、新設した第2工場を三価クロメート処理専用とした。処理工場を完全に分離・独立して設置することで、想定される事故を回避。顧客に対して安全と安心の提供につながっている。



新設された第2工場

今後の展望

新技術の提供に向け
改良を重ねてゆく

今後亜鉛メッキが事業の中心であることには変わりはないが、変化していく時代やニーズに合わせて、人も技術も設備も「進化」させていかなければならない。

例えば技術面では、クロム酸皮膜の代替として新しい皮膜（クロムレス）の開発や、電気亜鉛メッキ以外のメッキ技術といった新しい加工技術を早くサービス化できるよう取り組み始めている。

COMPANY PROFILE

株式会社 平和化研

ISO 9001
ISO 14001

当社の歴史

先代である父が起こした町工場が始まりです。オイルショックの影響で一時は倒産の憂き目も見ましたが、地道な努力の末に八尾を拠点に再構築しました。その後も環境問題の浮上やリーマンショックと苦境が続きましたが、長年のノウハウと実績、信頼関係を糧に乗り越えてきました。今後も「継続」と「向上」を繰り返し、メッキ技術を極めていきます。

社員と共に、これからもお客様に信頼され、愛される高品質企業を目指します。

代表取締役 浦崎 憲清さん



■主な事業内容

ボルト、ナット、ネジ等の電気亜鉛メッキ処理等

■主な取引先(納入先)

自動車部品メーカー、建築金物メーカー等

住所／〒581-0035
八尾市西弓削2-7
TEL／072-948-1699
FAX／072-948-8019
創業／昭和41年10月
設立／昭和51年10月
資本金／2,000万円
従業員／35名

<http://www.hkp-heiwa.co.jp>